



日本語

高齢者の権利憲章と地域社会 の義務



モンシニョール ヴィンチェンツォ パグリア

高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章

保健省高齢者医療・社会保障改革委員会による

- モンス・ヴィンチェンツォ・パーリア、会長
- レオナルド・パロンビ教授、秘書
- マリオ・バルバガロ教授
- エディス・ブルック
- ベリア・ブルーノ博士
- シルヴィオ・ブルサフェロ教授
- マイテ・カルピオ博士
- ジャンピエロ・ダラ・ズアンナ教授
- パオラ・ディ・ジュリオ教授
- ssa ネリナ ディリンディン教授
- シモネッタ・アニエロ・ホーンビー博士
- ジュゼッペ・リオッタ教授
- 教授アレッサンドロ・パン
- ジャンニ・レッツァ博士
- アンドレア・ウルバニ博士
- 教授パオロ・ヴァインズ

索引

導入

なぜ高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章なのか

コンテキスト

高齢者の尊厳を守る権利

責任ある援助を受ける権利

積極的な恋愛生活への権利

結論

高齢者の権利憲章と地域社会の義務

前文

カードの価値

1. 3世になっても人間の尊厳を尊重するために
2. 責任ある支援のために
3. 人間関係を活発に保つために

ストーリー

導入

2020年9月にスペランツァ大臣が高齢者向けの医療・社会保障改革委員会を任命したとき、新型コロナウイルス感染症パンデミックの疫学的な全体像は暗く、不明な点が多かった。とりわけ、世界レベルで支配的だった懸念すべき観察は、高齢者、特に居住施設にいる高齢者がこの病気の主な犠牲者であるということであった。老人ホーム、老人ホーム、RSAでは、実際の虐殺が行われており、病人が隔離生活を送り、残念なことに死亡したという隔離状況がさらに悪化した。したがって、これらの環境で強い別居により、愛する人たちに再び会い、抱きしめることができなかったであろう家族、子供、孫にとっても悲劇です。

過去2世紀にわたる人類の進歩と発展の幸せだが挑戦的な目標である、誰もが現在到達している人生の年齢に対する新しいアプローチと新しい見方が必要でした。このため、援助の抜本的改革プログラムに取り組むにあたっては、現在人口の20%をはるかに超えている高齢者の権利擁護と尊重の原則を見直し、宣言することから始めることが決定された。イタリアとヨーロッパの人口の合計ですが、世界中のどこでも増加しています。

したがって、高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章を作成する必要があり、そうすることで、すべての世代が明日、そして今日においても私たち全員が到達するであろう、尊厳が保証された将来と将来のサービスに向けて同盟を結ぶことができるようになります。若者たち。憲章は改革を鼓舞する必要があり、私たちの意図では、高齢者を社会的および集団生活の中心に据える根本的なパラダイムシフトのための文化的、政治的、計画的な手段となる必要がありました。

このため、この文書は、スペランツァ委員会が作成し、2021年9月にドラギ大統領に提出した実質的な文書全体の冒頭に置かれた。さらに、それは、社会全体、すべての世代に対して、彼らの義務を提案するという問題でもあった。高齢者の権利。したがって、タイトルにある「権利」と「義務」の結合です。この点においても、憲章は、世代間を明確に表現した形で社会を考える新しい方法を刺激したいと考えています。その際、首相は「委員会が行った仕事は並外れたものである」とドラギ大統領は述べた。「これは社会的、倫理的に非常に重要な取り組みであると彼は付け加えた。イタリアは、あらゆる状況において、高齢者の権利、個人の尊厳の尊重を保障しなければならない。社会的および医療的ケアは適切かつ責任を持って行われなければなりません。したがって、政府は本日提示された介入提案を支持するつもりです。」

実際、その後数か月のうちに、改革案に実質と具体性を与えるため、ガロフォリ評議会議長国次官を委員長とする高齢者有利政策委員会が誕生し、本部はキージ宮殿にあった。この改革は憲章の原則に触発されており、若者とすべての世代を、敬意と尊厳の面で高齢者としての生活を新たな次元に戻すだけでなく、疎外感や孤立感の少ない生活を取り戻す戦いに若者とすべての世代を巻き込むことを目的としている。

結局のところ、これは、最も古く、最も長寿な国の一つであるイタリアが、より人道的で高齢者を尊重する共通の運命を求めて全世界に発信する貴重なメッセージである。

ヴィンチェンツォ・パーリア

なぜ高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章なのか

モンシニョール ヴィンチェンツォ パグリア - 委員長

コンテキスト

パンデミックは、一方では人々の寿命を延ばす方法を知っているが、他方では人々を孤独と放棄で満たしている社会の矛盾を浮き彫りにした。新型コロナウイルス感染症により、私たちが既に見捨てていた高齢者が何千人も排除されました。そして私たちは彼らに非常に大きな負債を負っています。多くの犠牲者を生み出している、不均衡で不当で負担のかかる医療制度の重大な欠陥を根本から取り除くことが不可欠です。私たちはパラダイムを覆す必要があります。しかし、これは私たちが老後に対する新たなビジョンを持っている場合にのみ可能です。

前世紀半ば以来起こった人口革命は、高齢者の大陸という新たな大陸を浮き彫りにしました。以前は古いものがなかったわけではありません。しかし今日、私たちは歴史上初めて、何百万人もの高齢者という「集団老年」を経験しています。政治的、経済的、社会的、精神的など、何の考えも持たない人々が住む未知の大陸。発明される時代です。つまり、私たちは老後に対する新たなビジョンを必要としているのです。長寿は単なる一時的な付加ではなく、人生全体と私たちの関係を大きく変えます。

この新たなシナリオに直面して、欧州委員会は、高齢者ケアの新たな視点に関するいくつかの感動的な原則を概説する憲章を作成することが適切であると判断した。この憲章は高齢者の権利について語るだけでなく、同時に高齢者に対する社会の義務も示している。このようにして、高齢者の生活は社会の生活と結びついており、世代間であっても、すべての人の間に避けられないつながりがあることを示しています。この憲章は、19日に採択された高齢者の人権促進に関する欧州評議会加盟国に対する閣僚委員会の勧告CM/Rec (2014) 2など、一部の国際文書に含まれる指摘を具体的に拒否している。2014年2月に制定された欧州憲章と、2010年6月に10か国の協力グループによる高齢者虐待に対する欧州 DAPHNE III プログラムの枠組みの中で、支援と長期ケアを必要とする高齢者の権利と責任に関する欧州憲章が策定されました。EUSTACEAプロジェクトの一部。

権利について話すのは敬虔な幻想であり、現実とはまったく異なるという人もいるかもしれませんが。高齢者はしばしば国にとって問題とみなされます（社会保障、病院、医薬品、その他の支出を考えてみてください）。残念なことに、私たちは高齢者が必要以上の社会保障や福祉救済を得ているだけでなく、例えば孫や同年代の配偶者に対する援助の主人公であることが多いことを忘れてしています。そして、それらが市場とそれに関連する仕事のかなりの部分を占めており、年間2,000億以上と見積もられていることも忘れてはなりません。

憲章が提案する高齢者のビジョンは、高齢者が国の包括的かつ持続可能な発展の潜在的な推進力であることを示しています。つまり、高齢者は問題から社会経済モデルの成長の機会へと変わる可能性があるのです。ユダヤ人の伝統にとって大切な用語と概念を使用するこのカードの最も深い意図は、ティクン・オラムの真のプロセス、つまり最も壊れやすいものを中心に世界を修復することを促進することです。彼らの尊厳を修復し、権利の保護を保証するだけでなく、個人主義、家族の貧困、人口減少、領土の放棄などの現象によって引き裂かれた社会、人間、家族、友情の構造に新たな命を吹き込むことです。20世紀のイタリアを象徴するものでした。

憲章は、多くの章で権利と義務の3つの文脈を明確に述べています。1) 高齢者の尊厳の尊重、2) 責任ある援助の原則と権利、3) 活発な人間関係のある生活の保護。

高齢者の尊厳を守る権利

憲章の第1章は、高齢者の尊厳の保護に特化しており、次の2つの重要な原則を定めています。「1.1 高齢者は、人生の選択に関して、独立した、自由な、情報に基づいた、意識的な方法で自分自身を決定する権利を持ち、彼に関係する主な決定。1.2 高齢者の身体的および認知的状態により、自由で完全かつ意識的な自己決定に必要なすべての情報と知識を高齢者に提供することは、家族および高齢者と交流する者の義務である。」

ここでの権利と義務は、選択の自由が空虚な言葉ではなく、紙の上の権利であるという文脈に向けて組み合わされています。そして同時に、高齢者の生活における最大の問題の一つ、つまり選択の可能性の剥奪も明らかになりました。この2つの記事へのコメントは、それをよく説明しています。「高齢になると、私たちはしばしば影の境地に入ります。これは明らかに健康状態と虚弱さによって決定されますが、実際には、高齢者にはもはや能力がないという年齢差別の偏見の表れです」自律的な意思決定を行うとともに、自分自身の生活を自主的に管理する能力。身体的または認知的依存の評価と、暗黙の失格に変換されることが多い、推定される意思決定能力の欠如とを区別する必要があります。

高齢者が日常生活を送るための身体的および手段的能力（洗濯、食事、金銭の使用、移動手段など）を失ったという事実が、自動的に決定能力がないという判断に変わってはならず、自動的に決定能力の欠如という判断に置き換えられてはなりません。家族、介護者、支援管理者の決定、例えば高齢者が食べ物の種類や品質を選択できなかったり、自分の身分証明書や電子決済を持たせられなかった場合に起こる虐待。」

ここで私は、個人の自由の制限に対する懸念から、パンデミックのこの時期に新聞紙面を賑わせたグリーンパスと強制ワクチン接種に関する議論から始めてメモをとります。そうですね、高齢者、特に施設に収容されている高齢者の間の、より根本的な自由の欠如については一文もありませんでした。2021年9月11日付のニューヨーク・タイムズ紙による最近の調査では、高齢者に体系的に投与される抗精神病薬の使用について記載されている。

老人ホームの利用者、法律を回避する仕組み、その理由と影響。これは化学的拘束の悲劇的な使用であり、米国の老人ホーム入居者の21%にまで広がっています。たとえば、統合失調症の診断が近道として利用されており、これらの施設では高齢者の9人に1人が診断を行っているが、一般人口レベルではその数字は150人に1人にとどまっており、大きな差がある。米国の老人ホームでは20万人以上的高齢者が診断と「治療」を受けている。1976年から上院委員会が「米国における在宅介護：公共政策の失敗」という雄弁なタイトルで調査していたことを考えれば、この現象は新しいものではない。

イタリアでも化学物質の摂取制限が広まっている。その正確な寸法は不明ですが、個人の自由の剥奪の実にスキャンダルな例を表しています。それは、職員不足、有機的な計画の不透明さ、異なる老人ホーム間の不安定雇用の利用などの問題を解決するために化学的拘束を使用する構造物、特に違法な構造物に多く的高齢者が陥る奈落の底である。高齢者ケア改革委員会は、憲章を通じて高齢者の権利を再確認し、虐待を非難し、高齢者の将来が置かれるべき新たな地平を構想したいと考えている。自製の非難は当業界でも明らかです。3.6 「高齢者は、自らの精神的・物理的健全性を守り、あらゆる形態の身体的および道徳的暴力、不適切な形態の身体的、薬学的および環境的拘束、ならびに虐待および意図的または非意図的過失から保護される権利を有する。」

関連するコメントは、考えられる解決策さえ提案しています。「あらゆる不当な形態の物理的、薬理的、環境的拘束との戦いが特に重要であると思われる。」

この保護は、暴力、虐待、ネグレクトが家庭内、施設内、またはその他の場所で発生したかどうかに関係なく、確実に行われるべきです。

この種の虐待を防止する最も効果的な方法は、ビデオカメラの使用などの単なる技術的制御の使用によってではなく、高齢者が外部との関係や交流を育む可能性によって表されます。訪問者やボランティアの存在は、閉鎖された空間で起こり得る虐待に対する最善の保護となります。」

これらの考慮事項により、委員会はRSAを改革する方法を提案することになりました。ここで私が9月1日にドラギ大統領に行った改革計画のプレゼンテーションの一節を引用する。「1) RSAは家族、ボランティア、市民社会に開かれた住居でなければならず、その中にデイセンターを主催する可能性を持たなければならない。遠隔医療、地域サービスと総合在宅ケアを提供するセンター。外部世界との開放性と交流の度合いが、個々の構造物の認定および品質評価基準の1つになります。これは、残念ながらコロナウイルスのパンデミックで発生した、将来の孤立と孤独の恐ろしく広範囲にわたる状況を回避することを目的としています。継続的なケアの一環として、また病院との関連において、RSAはリハビリテーションを経て安定した高齢者の自宅への最終的な復帰を目指して、移行期ケアの役割を担うことができます。2) まさにこの機能変更のために、RSAが適切に機能するために必要な人員、必須装備、医療、看護、リハビリテーションスタッフの基準が見直されます。3) そのような

この進歩には、一方では料金体系の見直しが必要となるが、他方では透明性と職員名簿の公表義務も必要となるだろう。」

したがって、3つの変化が促進されます。認定基準として構造物を外部に開放するという絶対的な要件、終着駅としてではなく一時的な動的平衡状態の連続体の一部としての居住介護の機能の変化、有機植物の厳格な管理と透明性、そしてその適切な強化。違法建築と闘うということは、すべての建築物がオープンで完全に透明で、出入り可能でアクセス可能で透過可能であることを要求することも意味します。高齢者の選択の自由に対する最も重大な侵害の1つは、正しく刑務所と定義できる体制内で、これらの施設に出入りすることが物理的に不可能であることです。

次に、2番目の例として、高齢者の選択の自由を保護する第1条と第2条に戻りたいと思います。老後をどこで過ごすか？これは守るべき基本的な選択の1つであり、家に留まるという選択です。多くの場合、決定を下すのは親族であり、あるいは支援管理者でさえ、高齢者を暗黙の禁止者の役割に貶めるようなスキルを何気なく引き受けることがあります。しかしさらに悪いことに、在宅ケアサービスが完全に不足していること、またはそれらを利用することが経済的に不可能であることによって選択が左右されることがあまりにも多い。一方では、大多数の高齢者が自宅で過ごすことを選択したとしても、病気や障害のある状態、または親族や保護者の困難や希望がある場合、多くの障害が組み合わさってこれを困難、困難または不可能にさえしていることがわかります。憲章にはこれについて何と記載されていますか？第1.9条は、「高齢者は可能な限り長く自宅に留まる権利を有する」という原則を定めています。

これは、「高齢者のケアの場としての住宅」というタイトルからも明らかな、奥深い改革である。その理由は単純で、私は議論の余地がないと信じています。高齢者にとって、家は愛情と記憶、歴史と経験の場所です。カミッレリが書いたように、それを失うことは記憶を失い、自分のルーツ、そして最終的には自分自身を放棄することを意味します。

しかし、高齢者は家族の理由、経済的理由、特にサービスの不足により家を失うことがよくあります。委員会は、ISTATと協力して、75歳以上の人々の症状について調査を行ってきたが、現在発表されている研究結果については触れずに、その年齢層には重篤な症状を抱えた高齢者が100万人以上いるということだけを観察したい。公的または私的を問わず、家族の援助がない場合、一人暮らしまたは高齢の配偶者と同居している場合に、日常生活の身体的および道具的側面における運動および活動の困難。私たちが家庭で適切な社会的支援によって彼らを保護しなければ、これらの人々にどんな選択の自由があるのでしょうか？建築上の障壁、エレベーターのない家、急峻な山の中心地、つまり、付き添いなしで暮らす人々の困難について考えてみましょう。こうした理由から、委員会は、いわゆるADI（継続的統合在宅支援）の前例のない強化を勧告する。第1.10条は、「住宅が不足または喪失した場合、高齢者は適切な住宅を持つために適切な経済的利益にアクセスする権利を有する」と規定しています。関連するコメントは、「高齢者が自宅に留まり、私的空間と公共空間の両方を自由に移動する権利には、建築上の障壁の除去に対するますますの取り組みが必要であり、その介入は規制や規制によって条件付けられることが非常に多い」と説明している。複雑で煩雑な行政手続きは、実際には

最終的には人々の移動の権利を損なうことになります。家と住宅に対する権利は、立ち退きやホームレスになった場合に補助家賃で家に即座にアクセスできる権利の形も取らなければなりません。経済的原因やその他の社会的問題に関連した不適切な入院が発生することは珍しいことではなく、高齢者には個人的な苦しみや不便をもたらし、地域社会には不当な経済的負担をもたらします。社会サービスや保健サービスからの支援の欠如や不十分さは、しばしば自分の家に住む権利の客観的な侵害につながります。建築上の障壁によって制限されている何十万人もの高齢者のことを考えてみてください。その中で最も一般的なのは、住居の欠如です。エレベーター、高層階にお住まいの方向けです。」

最初のセクションにはさらに多くのことが含まれていますが、要約すると、この最初の章をよく説明する2つの極端な例を示しました。暴力、虐待、拘束を受けない権利から、家にいて選択できる可能性までです。誰とどのように生きるか。必要な抜本改革はこうしたニーズから始まります。

責任ある援助を受ける権利

第2章の最初の2つの記事では、「2.1 高齢者は、ケアパス、治療の種類の定義に参加し、ケア健康を提供する方法を選択する権利を有する」と述べ、責任ある援助に対する権利と義務についても概説しています。そして社会的ケア。医療および社会的ケアの機関と労働者は、医療および社会的ケアの提供に利用できるすべての選択肢を高齢者に提示する義務がある。」

現代の複雑な治療法において、考えられる選択肢、それぞれの長所と短所について知る権利があります。援助の分野においてさえ、インフォームド・コンセントを策定することが必要であると言えるでしょう。これは、公然と偽造されていない場合、または単に情報が欠如している場合に、不正確な情報のリスクに対する不可欠な予防策です。以下の条項が「2.3 高齢者は、現行法で規定されているように、医療に関するインフォームド・コンセントの権利を保障されなければならない」と規定することは、まさにこの方向に進んでいる。2.4 高齢者の身体的および認知的状態に関連して、必要なすべての情報と専門的スキルを高齢者に提供するの、医師および医療専門家の義務です。2.5 教育機関には、虐待を防止するための適切かつ効果的な措置を講じる義務があります。」

関連するコメントで報告された例は、この点に関して示唆に富んでいます。「高齢者が同意を表明できる場合でも、医療行為の提供に関して支援管理者の同意が不当に求められるケースが頻繁にあります。健康状態に関する情報は親族にのみ提供され、関係する高齢者やその指示を受けた他の対象者には提供されない。」

以下の記事は、若い世代に提供されるのと同じ質の高齢者ケアを保証することを目的としています。ケアの現場は、逆説的に障害や自給自足の喪失を生み出さないこと。セラピーと援助は常に

回復目標を達成し、以前の健康状態と生活状態に戻ります。在宅ケアの提供は、それ自体が保証を意味します。私たちは、施設入所が身体的および精神的障害の本質的要因であることをよく知っています。いわゆる床上安静、自宅からの分離に必然的に伴う混乱状態、強制的に動けない状態、最も重要な変数を挙げると、食事の変化、睡眠リズムの違い、実行できる活動の貧困、客観的な社会的孤立などです。これが以下の記事の理論的根拠です: «2.6 高齢者は、個人のニーズと希望に適した質の高いケアと治療を受ける権利を有します。2.7 高齢者は、自分の健康状態に関連して必要と思われる医療サービスに適切かつ効果的にアクセスする権利を有します。2.8 高齢者は、損傷した機能の回復を最も保証する環境で世話やケアを受ける権利を有します。2.9 年齢を選択したあらゆる形態の医療と援助と闘うことは施設の義務である。」

残念ながら、他のヨーロッパ諸国でも広がっている、高齢者に対する質の高いケアを否定する傾向がイタリアでも広がりつつある。パンデミックは、この意味で憂慮すべき傾向を明らかにした。オランダの医師が高齢患者に提案する「契約」（新型コロナウイルス感染症の場合は長時間の人工呼吸器や安楽死）から、スイスとスペインで書面で定められた集中治療へのアクセス制限に至るまで、75歳以上の患者。恐怖のギャラリーは非常に長くなるだろう。eCancer Medical Science の調査では、ヨーロッパの高齢者の半数のみが、若者向けに用意されている優れたがん治療を受けていることが明らかになりました。そして逆説的ですが、新生物は高齢になるとより一般的になります。しかし、パンデミックやそれに伴う選択、あるいはがんの形態について気にする必要すらありません。残念なことに、議会サービス・オンブズマンとデイリー・テレグラフのデータに基づいて、少なくとも英国の病院での普通のことを考えてみましょう。高齢の患者は食事や水も与えられず放置され、傷口は開いたままで、包帯も交換されず、患者は洗われません。清掃方法がひどく不適切で、鎮痛剤が投与されなかったり、間違った治療を受けたり、転倒した後には床に放置されたりして、人々が尿に浸かったり、便の中でベッドに横たわったりすることになる。

デイリー・テレグラフの記事は、英国の病院ではこうした虐待が常態化していると述べ、多くの家族が長年にわたって知っており、不満を訴えてきたことを裏付けている。報告されたデータはパンデミックのかなり前の2010年のものであり、緊急体制下ではないことは確かだ。同じような恐怖や人類の損失に陥ることを避けるために、再建されるべき堤防がある。この論文は、治療法には不足がないこと、治療には治癒という目的があり、可能な限りあらゆる形態の痛みや痛みを緩和するよう常に配慮が払われていること、という保証をすべての人に引き出そうとしている。この最後の点は委員会によって非常に重要であると考えられていたため、実際に第1章に含まれており、そこでは次のような文章が見られます。身体的、精神的、心理的な痛みと苦しみを、人生の終わりまで耐えることができます。誰も最後の通路の入り口に見捨てられるべきではありません。」

それには次のようなコメントが添えられている: 「人口の高齢化の進行、疫学的な状況の進展、医学の進歩により、高齢者が緩和ケアを受け、人間的、社会的、精神的に刷新されることを保証する必要が生じている。国際的な参考文献で強調されているように、緩和ケアの基礎となる一般的な要素（早期発見、評価と治療の多次元性、ケアの継続性、治療と支援経路の個別計画）に加えて、次のことを考慮する必要があります。

高齢患者が表明するニーズの特異性と、これらのニーズがどのように現れるのか。この意味で、孤独は常に厳しい状態ですが、衰弱したり病気になったりしたときはさらに厳しい状態であると考えなければなりません。痛みがあると耐えられない。私たちは一人で苦しむよりも死を好みます。安楽死の要求は多くの場合ここから始まります。家族、社会団体、地域社会には、死にゆく人のニーズを医療の側面だけに任せるのではなく、人生の最終段階でふさわしく愛情を持って寄り添う義務がある。」

痛みとの闘いは、私たちのテキストの3つの章すべてを貫いています。それは権利であり、援助とケアの保護であると同時に、痛みは孤独では経験できないし、経験してはならないという認識における人間のおよび社会的同伴でもあります。可能な限り最良の方法でケアされ、生活のさまざまな困難を伴うという、誰もが抱くこの願望から、家庭に近く、社会問題に配慮し、社会的問題に配慮した新しいケアのモデルに対する委員会の提案が生まれました。予防、相乗効果の探索。憲章の第3セクションで報告されている内容を検討することで、それがよりよく理解できます。

積極的な恋愛生活への権利

第3セクションの冒頭は、関係のある生活の保証、共存の形を選択する自由、差別との戦い、高齢者の世話をする人々の支援に完全に捧げられており、「3.1 高齢者」と述べられています。積極的な恋愛生活を送る権利があります。3.2 高齢者には、希望する人と同居する権利があります。3.3 施設や社会は高齢者に対して、人口に存在するあらゆる年齢層の人々と自由に交流することを妨げるような、いかなる形態の投獄、ゲットー化、隔離を避ける義務がある。3.4 高齢者がいて、今後も同居を奨励しようとする家族への支援を保証するのは施設の義務である。3.5 機関や社会は、高齢者の親族や感情的な関係を持つ人々との訪問、接触、知人との交流を通じて、高齢者の感情的な継続性を保証する義務がある。」

ここでは3つの非常に重要なテーマが絡み合っています。脆弱な状態にある高齢者は、人間関係と愛情、彼を取り囲みサポートしてくれる日常のつながりのネットワークにさらに依存しているという認識、あらゆる形態の疎外や排除との戦い、障害のある人々への支援です。それをサポートします。私たちは、新型コロナウイルス感染症（COVID 19）のパンデミックに先立って、文字通り住宅内でウイルスが爆発的に蔓延した、孤独と社会的孤立という本当のパンデミックを忘れていることがあまりにも多い。高齢者や虚弱な人にとって、一人にならない権利（そして私たちを一人にしない義務）は、健康、さらには命の権利と一致します。科学文献には、65歳以上の孤独と心血管疾患、自律性の喪失、認知症、うつ病、その他多くの障害との強い関連性を証明する研究が数多く掲載されており、多くの人々が社会的無視の中で孤立していることがさらに深刻であるのはこのためです。これは急速かつ容赦なく医療問題となります。家族や介護者も一人で取り残されることが多く、多くの貴重な支援者は、助けなしで残りの家族を支え、仕事をし、愛する人のニーズを満たさなければなりません。

結論

これら3つの懸念は、欧州委員会の改革案に大きな余地を残しています。実際、私たちが設計した継続的なケアの基礎は、最も脆弱で最も高齢者である、私たちが全員が参加することを望んでいる80歳以上の400万人のためのネットワークと監視サービスで構成されています。ここに概要文書からの抜粋を報告します。「これらの（ネットワーク）サービスは基本的に、年に一度の多面的な評価手順で構成されています（これにより、多くの善良な国の欧州基準に近づけます）。これにより、必要に応じて、パーソナライズされた評価手順を定義できるようになります」ケアプラン、したがって連続体への入り口、そしてデジタル追跡への入り口でもあります。さらに3つの要素が、この低強度ながら最大の普及サービスを特徴づけています。

に。孤独や社会的孤立と体系的に闘うための社会的包摂プロセスの促進と開始、デジタル包摂（プログラムやソフトウェアの使用、遠隔医療要素）、文化的包摂（コース、実習、文化的イベントなど）

b.健康教育、健康増進、予防

c.緊急事態（熱波、パンデミック、自然災害など）における援助とサポート

十分に構造化された部門研究による研究と実験により、文献で知られている利点、すなわち救急室の利用や入院の大幅な減少、関節リウマチやRSAのケア、自給自足の状態での最良の平均余命を確認し、定量化することができた。計画されている実験には大規模なサンプルが含まれ、連続体全体と導入されるデジタルツールとシステムを実装するプロセスの最初のステップとなるでしょう。」

私たちが多大なエネルギーを注いでいるもう1つの点は、認知症やその他の慢性的な障害を伴う病状に苦しむ人々のための「デイセンター」です。エンターテイメントセンターとケアセンターの2つの機能を備えて設計されており、都市再開発と社会再開発の両方を兼ね備えています。、すでに「回復」機能があり、これらの人々にとってすでにもてなしの機能を備えています。これらの施設は家族や介護者もサポートしており、家族や介護者は、愛する人の世話をするために1日8時間の安らぎを得ることができ、平和で自由な空間が他の仕事に開けます。

最後に、この提案は、認定規則のない「違法な」自宅（場合によっては実際の強制収容所）で高齢者が実際に搾取される状況がもはや容認されないよう、透明性を目指した努力と違法行為との闘いに医療と社会システム全体をコミットするものである。透明性もコントロールもありません。私たちはパンデミック中に見られた恐怖を忘れたくなく、実際、パンデミックを在宅中心のケアシステムに向けた大きな変化と推進の機会にしたいと考えています。

この憲章は、「上層」社会と民主主義が高齢者に提供できなければならない、成熟した市民の権利と義務の感覚を概説しています。それはユートピア的な提案ではありません。最も弱い立場にある人たちから始めて、彼らを注目の中心に据えることは、包括的かつ広範な開発に有利に働くでしょう。高齢者は、デジタル経済、サービス経済、グリーン経済、そして消費経済といった経済の交差点でもあります。

高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章

前文

イタリア憲法は、高齢者の権利の具体的な保護を規定していません。この草案は、第三時代の問題が今日の公的な議論にあまり関係がなかった年に起草されたため、憲法憲章にはこのテーマに関する正確な言及がなく、憲法憲章は高齢者の場合の福祉措置を提供することに限定されていた。またこの理由から、近年では、たとえば芸術を導入するなど、さまざまな方法でこの欠如を克服することが決定されました。非差別要因の3つは年齢です。

しかし、欧州連合機関の態度は異なりました。2000年に署名された基本的権利憲章では、高齢者の権利である芸術に特定の条項が設けられています。25条では、「組合は、高齢者が尊厳のある自立した生活を送り、社会的および文化的生活に参加する権利を認め、尊重する」としている。これは、深く検討するための効果的な規制基盤であり、高齢者が表明する増大する取り返しのつかないニーズに応える革新的な提案です。

さらに、我が国の憲法にこの主題が明確に存在しないことは、何よりもまず連帯と平等の原則から出発して、高齢者の権利の定義を定着させるための安全な基盤を見つけることを妨げるものではないと言わなければなりません。高齢者は当然のことながら社会集団の一員であり、これらの集団の構成員との関係において、芸術に謳われている「政治的、経済的、社会的連帯の義務」が高齢者の権利に相当する。2そして芸術によって課せられた課題。3.共和国に対し、「国民の自由と平等を事実上制限し、人間の完全な発展と、国の政治、経済組織、社会発展へのすべての労働者の効果的な参加を妨げる経済的および社会的障害を除去すること」。

したがって、憲法は、高齢者について明示的に言及していないにもかかわらず、高齢者の権利の適切な促進と保護、および高齢者に対する義務の履行が確保されることを要求している。

カードの価値

高齢者の権利と地域社会の義務に関する憲章は、保健省に設立された高齢者向けの保健および社会医療支援改革委員会の活動の成果であり、単なる憲章と比較すると、

高齢者の権利と地域社会の義務に関する抽象的な声明は、二重の意味でさらなる一歩を踏み出すことを意図している。一方では、基本的な原則と権利を立法者に提示することによって法制度に影響を与えることを目的としている。特定の規制法で正式に認められる一方で、高齢者の世話をしよう求められている施設や運営者に運営上および組織上の指示を与えるものである。

この憲章は、欧州評議会加盟国に対する高齢者の人権促進に関する閣僚委員会の勧告 CM/Rec (2014) 2 など、いくつかの国際文書に含まれる指摘を具体的に表現することを意図している。2014年2月19日に制定された欧州憲章と、10か国の協力グループによる高齢者虐待に対する欧州 DAPHNE III プログラムの枠組みの中で2010年6月に策定された、支援と長期介護を必要とする高齢者の権利と責任に関する欧州憲章EUSTACEAプロジェクトの一環として。

最後に、この憲章は、高齢者の基本的権利についての知識を促進し、意識を高めることと、高齢者と関係を築く人々に課せられる義務を促進するという目的を果たしています。

これらは、憲章の内容を、行政の行動を鼓舞し、指導するための閣僚評議会議長からの指令に翻訳することによって、また、統一会議での合意の可能性によって、ただちに追求できる目標である。それらを地域や地域社会と共有します。

高齢者の権利憲章と地域 社会の義務

1 高齢になっても人間の尊厳を尊重する

1.1

高齢者は、人生の選択や自分に関わる主要な決定に関して、独立して、自由に、十分な情報を得た意識的な方法で自分自身を決定する権利を有します。

1.2

家族や高齢者と関わる人の義務は、高齢者の身体的および認知的状態に応じて、自由に完全かつ意識的な自己決定に必要なすべての情報と知識を提供することです。

例と考慮事項

高齢になると、私たちはしばしば影の中に入ることがあり、それは健康状態や虚弱さによって決定されるように見えますが、実際には、高齢者はもはや自律的に決定を下す能力や自立した生活を管理する能力を持たないという年齢差別の偏見の表現です。彼自身の人生の。

身体的または認知的依存の評価と、多くの場合暗黙的な禁止に変換される、推定される意思決定能力の欠如とを区別する必要があります。

高齢者が日常生活を送るための身体的および手段的能力（洗濯、食事、金銭の使用、移動手段など）を失ったという事実が、自動的に決定能力がないという判断に変わってはならず、自動的に決定能力の欠如という判断に置き換えられてはなりません。家族、介護者、支援管理者の決定、例えば高齢者が食べ物の種類や質を選択できなかったり、自分の身分証明書や電子決済を持たされなかったりした場合に起こる虐待。

1.3

高齢者は、部分的または完全に自律性を失った場合でも、自分の尊厳を保つ権利を有します。

1.4

高齢者には名前を呼ばれ、敬意と優しさをもって扱われる権利があります。

1.5

高齢者は、個人的および身体的ケアの行為において、プライバシー、礼儀および謙虚さを尊重する権利を有します。

1.6

高齢者は、最も損なわれた末期の状況であっても、残存する能力で支援を受ける権利を有します。

1.7

高齢者は、生命の終わりまで、身体的、精神的、心理的であっても、尊厳の保持、痛みや苦しみのコントロールの原則を尊重した緩和ケアを受ける権利を有します。誰も最後の通路の入り口で見捨てられるべきではありません。

例と考慮事項

人口の高齢化の進行、疫学的な状況の進展、医学の進歩により、高齢者が緩和ケアや新たな人的、社会的、精神的支援を受けられるようにする必要性がますます高まっています。国際的な参考文献で強調されているように、緩和ケアの基礎となる一般的な要素（早期発見、評価と治療の多面性、ケアの継続性、治療と支援経路の個別計画）に加えて、ニーズの特殊性を考慮する必要があります。高齢患者の表現とそのニーズがどのように現れるか。

この意味で、孤独は常に厳しい状態ですが、衰弱したり病気になったりしたときはさらに厳しい状態であると考えなければなりません。痛みがあると耐えられない。私たちは一人で苦しむよりも死を好みます。安楽死の要求は多くの場合ここから始まります。家族、社会団体、コミュニティには、死にゆく人のニーズを医療の側面だけに委ねるのではなく、人生の最終段階でふさわしく愛情を持って彼に寄り添う義務があります。

1.8

高齢者と交流する人には次の義務があります。

敬意、名誉、思慮深く礼儀正しい行動をとり、高齢者による報告や観察に注意を払い、十分な注意を払います。

例と考慮事項

特に医療現場では、高齢者に対して非人間的で失礼な態度で接する習慣が非常に広まっています。高齢者を秘密の名前で呼ぶこと、または名前を識別番号に置き換えることは、明らかに正反対の関わり方ですが、どちらも高齢者に対する敬意の欠如を示しています。これは、高齢者の外見に注意が払われていないことによく表れる欠如であり、介助者間での衣服の交換、貧弱で非人間的な衣服の使用は、この種の虐待に該当します。

1.9

高齢者には、可能な限り自宅に住み続ける権利があります。

1.10

住宅が不足または喪失した場合、高齢者は適切な住宅を得るために適切な経済的利益にアクセスする権利を有します。

1.11

特定の身体的および健康状態に直面したり、建築上の障壁が存在したりする場合に、高齢者に適切なサービスを保証するのは施設の義務です。

例と考慮事項

高齢者が自宅に留まり、私的空間と公共空間の両方を自由に移動する権利を実現するには、建築上の障壁を除去する取り組みの強化が必要であり、その介入は複雑で煩雑な規制や行政手続きによって条件付けられることが非常に多い。それは実際に人々の移動の権利を損なうこととなります。家と住宅に対する権利は、立ち退きやホームレスになった場合に補助家賃で家に即座にアクセスできる権利の形も取らなければなりません。経済的原因やその他の社会的問題に関連した不適切な入院が発生することは珍しいことではなく、高齢者には個人的な苦しみや不便をもたらし、地域社会には不当な経済的負担をもたらします。社会サービスや保健サービスからの支援の欠如や不十分さは、しばしば自分の家に住む権利の客観的な侵害につながります。数十万の制限された高齢者のことを考えてください。

最も一般的なのは、高層階に住む人にとってエレベーターがないことです。

1.12

高齢者は、適切で尊厳のある生活水準を維持する目的で、自分の収入と資産を保護する権利を有します。

1.13

部分的または完全な貧困、あるいは経済的資源が不十分な場合に、高齢者に何らかの形での収入統合を保証するのは施設の義務である。

1.14

医療および社会医療サービスの実質的な無料化を保証するのは機関の義務です。

例と考慮事項

高齢者による経済的および財産的資源の使用に関して、複数の虐待が繰り返し発生しています。この点に関して、サポート管理者の介入は必ずしも適切であるとは限らず、多くの場合、個人の保護よりも資産の保護が求められます。

必要不可欠なレベルの医療を経済的に保証することに関して、高齢者による社会サービスの利用は、その享受を保証するために要求される身体側に十分な財源があることが強く条件付けられる。

さらに、公的機関が提供する社会サービスや保健サービスは高齢者の介護ニーズを満たせないことが多く、そのため高齢者は民間のサービス提供者に頼らざるを得ず、その結果、必ずしも持続可能とは限らない高額な経済的コストが発生します。

これには、一方では高齢者への経済的支援を定義するための所得基準を改革する機会が伴い、他方では貧困状態にある年老いた親の世話をするという子どもたちの継続的な取り組みが必要となる。

1.15

高齢者には、経済的な意思決定をする際に信頼して選んだ人々に支援や援助を求める権利があります。

例と考慮事項

特に認知機能に問題がある場合、高齢者は法的および経済的影響を理解し、健康上の問題、親戚の死、他国への移住について十分な情報に基づいた意思決定ができるように、「金融リテラシー」のレベルを向上させるためのサポートが必要です。介護施設。これは、高齢者が自分の経済管理を失わず、日常生活においてできるだけ自立できるようにするため、特に重要です。

1.16

高齢者は、本人の要望に応じて、本人の意志や好みに従って、本人の意思決定を支援する信頼できる人物を任命するなど、自らの意思決定において適切な支援を受ける権利を有します。

例と考慮事項

高齢者に情報を提供し、自分自身の決定を下すために信頼できる人を選択し、健康などの生活の重要な側面に関しても自分の利益に配慮できる権利について認識させる必要性がますます高まっているようです。最近、DAT（治療の事前宣言）に記載できる「受託者」の人物像が創設され、この方向に進んでいます。必ずしも親族や支援管理者である必要はありませんが、誰でも受託者となることができます。宣言に自由に記載できます。この選択は、その使用を全国にさらに広く広め、高齢者による宣言への署名を効果的にすることに貢献する可能性がある。

2 責任ある支援のために

2.1

高齢者は、ケア経路、治療の種類の定義に参加し、健康および社会的ケアを提供する方法を選択する権利を有します。

2.2

医療および社会的ケアの機関および労働者は、医療および社会的ケアの提供に利用できるすべての選択肢を高齢者に提示する義務があります。

例と考慮事項

この権利の行使は、健康と社会的ケアに関して行われる、必ずしも適切とは限らないさまざまな選択によって促進されるわけではありません。例えば、患者が社会医療施設への入院に頼らず自宅に留まる選択をした場合、在宅医療や総合ケアサービスの提供が不十分であるため、すべての医療費は患者またはその家族が負担しなければなりません。さまざまな形態の医療と社会医療の間で選択の自由と平等を確保することを目的とした公的機関による経済的関与は、必要でないとしても望ましいと思われる。介護環境の選択は、介護を受ける高齢者の希望に沿って、また高齢者のニーズや経済的資源と調和して行われなければなりません。リハビリテーションケアが必要な高齢者を急性期後部門や長期ケア部門に移送する行為など、虐待のケースは珍しいものではなく、移送は利害関係者の同意なしに行われることが多い。

2.3

現在の法律で義務付けられているように、高齢者は医療に関してインフォームド・コンセントを得る権利を保障されなければなりません。

2.4

高齢者に身体的および認知的状態に関して必要なすべての情報と専門的スキルを提供するのは、医師と医療専門家の義務です。

2.5

教育機関には、虐待を防止するために適切かつ効果的な措置を講じる義務があります。

例と考慮事項

高齢者が意思表示できるにもかかわらず、健康管理の提供について不当に支援管理者の同意を求めるケースや、健康状態に関する情報を親族や関係者のみに提供するケースが多発している。関係する高齢者や彼らが指示する他の対象者には使用しないください。

2.6

高齢者は、個人のニーズや希望に応じた質の高いケアや治療を受ける権利を有します。

2.7

高齢者は、自分の健康状態に関連して必要と思われる医療サービスに適切かつ効果的にアクセスする権利を有します。

2.8

高齢者には、損傷した機能の回復が最も保証される環境で世話やケアを受ける権利があります。

2.9

年齢を限定したあらゆる形態の医療と支援に対抗することは、施設の義務です。

例と考慮事項

高齢者の援助とケアは可能な限り自宅で保証されるべきである。在宅は損傷した機能の回復または維持を最も促進する環境であり、実行可能かつ適切と考えられるあらゆる健康上および社会的利益を提供するものであるからである。高齢者の病院やリハビリテーション施設への入院は、在宅復帰が優先目標であることを明確にして、ケアとリハビリテーションに厳密に必要な全期間にわたって行われるべきである。

2.10

医療従事者や社会福祉従事者は、介護が必要な高齢者の独立性と自律性を維持する義務があります。

2.11

医療従事者および社会福祉従事者は、高齢者のニーズに適した専門的な訓練を受ける権利を有します。

例と考慮事項

医療行為の中には、サービススタッフが対応可能な場合にのみ患者をベッドから持ち上げたり、転倒を避けるために寝たきりになるよう奨励したり、拘束具を導入したりするなど、高齢者の自主性を実質的に制限し、促進するものではない。こうした行動は、多くの場合、個人への敬意よりも仕事上の組織上の理由を引き合いに出して正当化されます。

3 人間関係を活発に保つために

3.1

高齢者には、積極的な恋愛生活を送る権利があります。

3.2

高齢者には、望む人と一緒に住む権利があります。

3.3

施設や社会は、高齢者に対して、人口に存在するあらゆる年齢層の人々と自由に交流することを妨げる、いかなる形態の投獄、ゲッター化、隔離を避ける義務を負っています。

3.4

高齢者を抱え、今後も同居を奨励しようとする家族への支援を保証するのは施設の義務である。

3.5

施設や社会は、高齢者の親族や感情的な関係を持つ人々との訪問、接触、知人との交流を通じて、高齢者の感情の継続を保証する義務があります。

例と考慮事項

人々が自宅や介護施設に閉じ込められ、面会や訪問の可能性が減少している場合だけでなく、介護施設が近所の生活から切り離されている場合にも、積極的な恋愛生活の可能性は保証されません。したがって、あらゆるレベルで若者と高齢者の間の実りある関係を促進し、さまざまな形の統合を促進することは、機関と地域社会の側の取り組みでなければなりません。

3.6

高齢者は、自らの精神的・物理的健全性を守り、あらゆる形態の身体的および道徳的暴力、不適切な形態の身体的、薬理学的、環境的拘束、虐待および意図的または非意図的過失から保護される権利を有します。

3.7

高齢者と交流する人には、高齢者に対するあらゆる形態の虐待、暴力、差別を報告する義務があります。

例と考慮事項

高齢者に対するあらゆる形態の暴力と断固として闘うために、道徳的および身体的暴力、虐待、基本的ケアの剥奪、脅迫、恐喝、屈辱、脅迫、経済的暴力または金銭的暴力、特に保護された環境や介護施設や支援施設で発生した場合はそうです。あらゆる不適切な形態の物理的、薬理学的、環境的拘束との戦いが特に重要であると思われる。

この保護は、暴力、虐待、ネグレクトが家庭内、施設内、またはその他の場所で発生したかどうかに関係なく、確実に行われるべきです。

この種の虐待を防止する最も効果的な方法は、ビデオカメラの使用などの単なる技術的制御の使用によってではなく、高齢者が外部との関係や交流を育む可能性によって表されます。訪問者やボランティアの存在は、閉鎖空間で発生する可能性のある虐待に対する最善の保護となります。

更なる予防手段は、誰もが手の届く可能性として在宅介護や共同住宅サービスの推進を通じて、一緒に住む場所や人を選択する高齢者の権利によって代表される。

3.8

高齢者は、自らの状態や可能性に応じた柔軟な就労形態やボランティア活動を通じて、社会生活に積極的に参加する権利を有します。

3.9

高齢者は、精神物理的制限がある場合でも、文化のおよびレクリエーションサービスにアクセスする可能性を保持し、自分の考えを表現し、文化を高める権利を有します。

3.10

IT 手段を通じたデジタル インクルージョン、e ラーニング、学習サービスの促進を保証するのは教育機関の義務です。

例と考慮事項

この権利を保障するには、社会から疎外される過程を避けるための適切な解決策を見つけることが求められる、団体や行政による公的保護の行使が必要である。

この目的を達成するために、各機関は、視覚障害者や聴覚障害者、移動のための支援だけでなく、社会的およびデジタル参加活動にも適切な支援を提供する必要があります。

さらに、デイセンターへのアクセスの具体的かつ検証可能な可能性は、これらの権利の保護の不可欠な形態を表します。

仕事や実習など、自分が好む活動を行う高齢者の権利は、適切かつ実際に実行可能で利用可能な形式であっても、軽視されてはならない。実際、偏見が蔓延しているため、高齢者には活動や取り組みができないという考えが広まっています。高齢期における積極的な老化は、生存率を高めるだけでなく、衰退を緩やかにすることができ、社会サービスや医療サービスに対する需要をより抑制し、生活の質を向上させることができるという科学的証拠が明らかになってきています。

3.11

高齢者には、自分の信念、意見、感情を保持し、尊重してもらう権利があります。

例と考慮事項

高齢者が宗教的行為を行う権利は、礼拝所の不足や、受付や介護の場での宗教行事を閉鎖するという繰り返しの選択によって妨げられている。

3.12

高齢者には自由に移動し、旅行する権利があります。

3.13

施設には、高齢者の移動と高齢者向けのインフラへの適切なアクセスを促進するための措置を講じる義務があります。

例と考慮事項

都市環境には、高齢者の移動に障害や障壁がないわけではなく、高齢者も他の虚弱な人々と同様に、公共の場所や一般に公開された場所での交通手段の移動に大きな制限を受けています。したがって、移動の自由に対するあらゆる形態の制限を撤廃することは、すべての公的機関の側でますます継続的な取り組みでなければなりません。

ストーリー

ストーリー | 1

他人が決めると……

マリオは82歳で、身体的な限界がありました。移動するには歩行器のサポートが必要で、トイレに行くにも介助が必要だった。彼は40年間働いた後、かなりの退職金を稼いでいた。彼は介護手当の承認も得ており、息子がまだ15歳だった幼い頃から割り当てられた公営住宅に住んでいた。

数年前、彼の息子は家族と住んでいた家から追い出されたため、彼と一緒に住むために引っ越してきた。ある日、息子は父親に、二人の同居はもう不可能であること、自分も妻も仕事に行かなければならず、日中は息子の世話をすることができないことを話し始めます。彼は老人ホームを提案するが、マリオは抵抗しようとする。

すでに単なる提案以上のものとなっていた息子の提案に動揺し、自分の権利を主張するために全力で反対し、時には喧嘩好きな性格が再び表面化することさえある。マリオがこのような態度を取るのには、既に決定された息子の提案を阻止することは実際にはできないと知っているからです。彼は泣き、絶望しましたが、息子の言うとおりにせざるを得ませんでした。服、電話、眼鏡が入ったバッグを持って、何も言わずに息子と一緒に、国境に隣接する孤立した家に向かいました。田園地帯があり、交通量の多い道路を見渡せます。彼が到着すると、アシスタントが彼を出迎え、他の2人でシェアするはずだった部屋を案内した。何人かの高齢者が彼を見つめ、誰かが彼に挨拶します。

そのため、息子はマリオの名前で公営住宅で家族と一緒に暮らし続け、もはや家族の一員とはみなされておらず、誰からも、あらゆるものからも隔離され、見知らぬ人々に囲まれた施設で暮らすことを余儀なくされている。

彼に残っているのは、連絡を取り合うための携帯電話だけだ。そこで彼は知人に電話して、もう目覚めることのできない悪夢のように思えた不条理な話をしました。彼は、そこで気分が悪くなり、不快で、よく食べなかった、実際、食べ物が不十分で、いつもお腹が空いていたと言いました。

数日後、息子が電話をかけてきたことを知って施設に行き、父親から電話を取り上げます。彼は、その電話が彼を興奮させ、気分を悪くさせるので、彼を引き留めないことが最善であると監督に言いました。

マリオはもはやこれらのことを誰にも話すことができず、彼らは黙って彼を閉ざしました。

ストーリー | 2

年配の女性におしゃれな服を着せるにはいくらがかかりますか?普通の虐待の話。

アダルジーザさんは20歳の頃からキャバレーで働いていた。彼女は歌うこと、踊ることが好きで、後に有名になる俳優にも出会ったことがあると皆に自慢していました。彼女は美しい声と体格を持っていたので、誰もが彼女を褒めました。彼女自身が言ったように、それは「無駄ではありませんが、私は皆の注目を集めました」。彼女はとても洗練された服装をしていて、戦争が終わったらやっと新しい服を買って当時の流行を追うことができるようになったといつも言っていました。彼女は、「もう一人ではいられない」という理由で2年間入院していたRSAの4ベッドルームの整形外科用ベッドにシーツを丸めて座りながら、いつも同じ情景を語っていました。「でも歩けないの?なぜ起きないのですか?」アダルジーザは声を下げるジェスチャーをして、対話者にもう少し近づくように頼みます。「ここでは静かに話しましょう、壁にも耳はあります。ほら、私はいつも決まった服装をしてきたの、誰にも分からないけど、髪の毛一つ乱れることも、ドレスにシミがついたこともなかった…ここで彼らは私にトラックスーツを着させている、だって彼らはそう言うんだから。より快適に。しかし、それは誰にとってより快適でしょうか?彼らのために。私はトラックスーツを着ていますが、私が着ているこのスーツは私のものではないと思います。人生で一度もトラックスーツを着たことがなく、好きでもなかったし、体操をしたこともないと言っていたのですが、すでに踊りながらかなり動き回っていました。しかし、ここでは、男性も女性も、オーバーオールを着た人が皆、髪を短くしすぎて、人の性別を認識するのが困難になることがあります。スーツを着ていれば、私たちは皆同じです。明らかに私は軍隊に勤務していませんでしたが、ここでは兵舎よりもひどいです。私は訪問者を受け入れることはありませんが、この状態で見られると恥ずかしいので、この方が良いです。エレガントなドレスを着て街を散歩したいです。」年配の女性に立派な服を着させるのに、国家、社会はどれくらいの費用がかかるのでしょうか?

ストーリー | 3

年配の女性におしゃれな服を着せるにはいくらがかかりますか?普通の虐待の話。

フルヴィオは79歳で、エンジニアとして働き、エレベーターを設計しました。彼はスイスとオランダで働いたことがあります。その後、彼はラ・スペツィアの会社のマネージャーになり、ローマで契約を結ぶと喜んで首都に移りました。

彼は年金のおかげで快適に暮らしていますが、最初の健康上の問題が生じたとき、孫たちから家に引っ越すよう勧められました。

ローマ郊外にある「とても良い」休息場所。

フルヴィオさんは非常に不安を感じていましたが、最終的には最初の治療期間が終われば元気を取り戻して家に帰れるだろうと自分に納得させました。そうです、彼はセンピオーネ広場エリアに美しい家を持っていたからです。同じ時期に、彼の甥たちは、財務管理や日々の選択においてフルヴィオのそばに誰かがいたほうが良いと考え、フルヴィオに対する管理上のサポートを求める要望を提出した。彼がこの取り組みについて知ったのは、ローマ民事裁判所からの召喚状を受け取ったときだった。彼の甥たちはそれを軽視し、それが彼にとって重要な助けになると主張します。彼らは、叔父の贅沢を知っているので、自分たちよりも見知らぬ人のほうがサポート管理者として適していると考えたが、叔父は決してその話を聞きたがらなかった。

そこで、彼の私生活に突然立ち入り、最も辺鄙な場所にさえ立ち入る弁護士が任命されました。

そうですね、フルヴィオは思います、今私は自分の権利を主張したいので、まず家に帰りたいと説明します、多分私を助けてくれる家族のアシスタントにお金を払うでしょう。そこで彼は立派なスピーチを準備するが、最初の面会では、任命令状を提示した後、デビットカード、書類、家の鍵を届けてもらうために急いでいる弁護士の話をあまり聞く意欲が感じられなかった。フルヴィオさんは、もしかしたらその日は適切な日ではなかったのかもしれない、単に最初の面会だったのかもしれない、と考えており、裁判官がこのように判断したということは、これが自分の権利や要求を主張する方法であることを意味すると考え続けている。

しかし、最初の会合の後、フルヴィオ氏は支援当局と再び話す機会を得ることができなくなった。彼は老人ホームの管理者に電話するように頼んだが、彼らは彼が必ず現れるから心配するなと言った。フルヴィオは抗議し、彼らは弁護士にすべてを報告するだろうから彼の発言に注意するように言いました。そして、時々訪ねてくる友人たちにすべてを話します。どうやってかわかりませんが、彼らはなんとかサポート管理者に相談し、それに応じて彼はフルヴィオの世話を続けたり、彼に誤った期待を抱かないよう警告したりしました。彼は、フルヴィオを故郷に連れ戻す責任を負いたくないので、今の状況が最善であり、明らかに彼にとって最善であると付け加えた。

フルヴィオの友人たちは、彼が美しい家を所有していて、収入のおかげで十分に暮らせていると彼に指摘します。サポート管理者は理屈には耳を貸さず、すでに決めているから大丈夫だと繰り返します。彼らはフルヴィオの意志は違うと主張する。弁護士は激怒してこう言った。他に付け加えることは何もありません。」フルヴィオは皆に家のことや外出できることだけを話しますが、サポート管理者とは話すことができなくなり、会うこともありません。彼は、これまで見たこともない見知らぬ人が、自分の意志を聞かずに自分のすべてを決定できることがどのようにして起こり得るのか理解できません。

ストーリー | 4

サポート管理者の選択について…一例

ジョバンニはもうすぐ90歳になるが、非常に明晰な頭脳を持っている。特に、明らかなことが1つあります。それは、彼がインスティテュートに行きたくないということです。彼はそれを皆に繰り返し、また常に自分自身にも繰り返しました。確かに彼は将来のことが心配だった。彼は健康でしたが、親戚はなく、買い物やその他の用事をしてくれる親切な近所の人だけでした。そして彼は必ず報いてくれた。彼の家はとてもきれいに整理整頓されていましたが、エレベーターのない3階にあるため、外出するのが困難になっていました。ある日、裏庭にできた小さな穴が彼にとって致命傷になりました。彼は転倒して大腿骨を骨折した。

こうして、彼が常に恐れていた旅が始まった。彼を訪ねた隣人は、家に帰ることについての不安を彼に打ち明けます。彼女はこれ以上彼を助けることができなかったと言いました。彼女は病院の医師やソーシャルワーカーとも話し、自分にできることはほとんどなく、年金や家計、その他すべてを管理するという問題もあり、彼には誰もいないと説明した。このため、サービスはすぐにサポート管理者にリクエストを行うことを決定します。ジョバンニがお金と自分の将来をどのように管理するかを決定できなかったわけではありませんが、彼は90歳であり、親戚がいない場合、最も簡単なことは彼を組織的な人物に任せることであるようです。

一方、急性期が過ぎたら別の施設に移送することも決定する。彼は高齢者であるため、実際にはリハビリテーションではなく、急性期後のリハビリテーション、つまり強度の低いリハビリテーションケアに進む予定です。そのため、彼は一日に数分のリハビリを行うだけで、残りの時間はベッドで過ごし、誰も彼を起こしてくれません。このリハビリテーションが彼の運動能力を大幅に回復させるのにどれほど役立たないかは容易に想像できます。

ある日、施設の医師が彼のベッドに近づき、ローマから少し離れたヴェッレトリ方面の別の施設に移って治療を続けることが望ましいと説明した。移籍するには、彼女が「ここに署名しなければなりません」としつこく手渡した書類に署名しなければならなかった。

ジョバンニはためらう、理解できない、帰国に備えて将来のことを話したい、健康状態について説明してほしい、なぜまだ歩けないのか聞いてほしい…などなど、いろいろなことを考えています。：要するに、彼は誰かと話したいのです。しかし、もう時間がなくなり、医師は急いでいて、すでに別の患者の診察を始めています。彼が言えるのは、「でも、家に帰りたい」ということだけだ。医者は彼を憐れむような目つきで見つめた。

彼がとりとめのない話をしていることを理解するには、「でも、もちろん、彼は今ここにいなければなりません。」ジョバンニは、内容が分からないまま、ついに署名する。彼はRSAへの移籍に同意していた。その署名の後、誰も彼に何も説明しないまま数ヶ月が経過しました。彼はリハビリ治療の継続を待っていますが、何らかの理由で延期される毎日です。ある日、見知らぬ男が彼のベッドの近くに現れました。おはようございます、私は弁護士のビアンキです。彼のサポート管理者に任命されました。私は彼女の年金と必要なものの世話をします。

ジョバンニは解決策を模索し始める。「そうですね、家に帰りたいのですが、ここに来てもう5か月になります。」弁護士は答える余地もなく「出かけるにはまだ早い。もう一度話し合う。」と応じた。それまでの間、この研究所の費用は私が支払います。様子を見よう。ここはローマから遠いので、できる限りまた彼女に会いに行きます。」ジョバンニは何も持っていないので、何か必要になるかもしれないので、まとまったお金を要求します。弁護士の返答はさらにおざなりで、「でも、そのお金をここでどうするのですか？あなたには何も不足していません。彼らがすべて面倒を見てくれます。」ジョバンニは、なぜそこに留まらなければならないのか、誰かが説明してくれるのをまだ待っています。

ストーリー | 5

適切な環境、つまり家庭での適切なケア。

過去の未婚女性にはよくあったことですが、彼女たちを取り巻く悪意のある判決にも関わらず、現在88歳のマリアは強く、自立した、毅然とした女性でした。そして、高齢になっても、多くの紆余曲折を経験してきたにもかかわらず、彼は今も生き続けている。彼女はずっと一人暮らしをしてきましたが、それでも満足 of いく社会生活や職業生活を続けることができました。文化的で勉強熱心な彼女は、高校を卒業するとすぐに、できるだけ早く働き始めて自立するために、タイピングコースに登録しました。したがって、輝かしい専門的なキャリアを積みたい女性にとって、決して素晴らしいチャンスの時代ではありませんでした。そして、まだ若く、訓練を終えた彼女はキリスト教民主党に雇われ、そこですぐに頭角を現しました。彼はアルド・モロに会い、彼の秘書室に入り、そこに長く留まりました。彼の人生はとても活発で、とても満足 of いくものでした。彼はローマのクロディオ広場の近くに美しい家を購入し、そこは法律を实践する人たちの近所で、今もそこに住んでいます。2年前、すでに高齢で退職して久しいマリアさんは、重大な健康上の問題を抱え始め、継続的な一連の検査が必要でした。特に専門的または高度なことは何もなく、状況を制御するために血球数の測定などのいくつかの分析を繰り返す必要があるだけです。たとえ彼女が経済的に余裕がなかったわけではなく、それを実行したにもかかわらず

在宅サービスを希望したところ、入院する必要があると言われました。そして、病院の後、途切れることのない悪循環のように、RSA への転院となり、彼女はそこで何ヶ月も過ごさなければならず、おそらく永遠に留まる運命にあったのでしょう。頻繁かつ定期的な血球検査のためにすべてが必要です。

それは、出口のないカフ力的な状況のように思えた。一方、RSA ではマリアの健康状態が悪化し、うつ状態に陥り、混乱を感じ始めていました。さらに、彼女の親戚は彼女が故郷に戻ることにまったく興味がなかったようで、それはまったく逆でした。

マリアさんが5か月前になんとか自宅に戻ることができたのは、後に支援管理者となった、繊細で気配りのあるソーシャルワーカーのおかげで、現在は優しく元気なルーマニア人の介護者と暮らしています。「私の小さな女の子」と呼びます。

ストーリー | 6

新型コロナウイルス感染症 19 のドラマ: 孤独と新たに見つけた自由の物語

アウレリアは85歳で、ローマの人口密集地域の中心にある老人ホームに5年間住んでいます。彼はとても豊かな恋愛生活を送っています。彼女は毎日友人を訪ね、店を回り、知らない地元の業者と長い会話をし、信頼できる医師にアドバイスを求めに行きます。パンデミックが到来し、研究所の扉が閉まり、もうそこから出ることはできません。人の移動の制限強化期間が過ぎても研究所から出ることはできない。去った人はもう戻ることはできません。アウレリアはこの状況に抑圧されていると感じていますが、全世界が経験している緊急事態と、多くの人々の命を覆っている悲劇については認識しています。彼は少し不平を言いながらも、この恐ろしい疫病が終わるのを待つことに抵抗しようとしています。しかし、パンデミックの新たな波により、彼女が住んでいた老人ホームにもウイルスが侵入し、施設内のほぼ全員の高齢者と高齢の修道女が発病した。アウレリアさんも陽性ですが、幸いにも入院することなく病気を克服することができました。その代わりに、研究所の他の高齢者、さらには高齢の修道女さえも入院を余儀なくされ、中には戻れず、おそらく6名ほど死亡する人もいます。

アウレリアさんはショックを受け、夏前に感染が減り始め、規制が緩和され始めると、イタリア全国民が家を出て自由に移動できるようになったのと同じように外出するよう求める。

彼女は再び、外出は許可されておらず、外出した場合は戻ることにはできないと言われました。それで数日後に荷物をまとめて、

ベッド & ブレックファストの部屋を予約し、研究所のドアを越えて、失われた自由を取り戻しましょう。彼女はそれをやりました。

ストーリー | 7

本当の病気は孤独であり、友情と親密さが違いを生む可能性がある場合

マリサとアントニオは絆の深いカップルでした。長くて全体的には幸せな結婚生活でしたが、子供がいなかったことを残念に思いました。退職と老後により、一緒に過ごす時間が増えた。愛情はいつもと同じで、彼らはお互いにたくさん付き合っていました。時々、彼らはお互いに、自分たちは一人じゃないから幸運だ、弱くてもう若くないときの孤独はとてもつらい、と言いつつ合った。

アントニオは善良で思いやりのある人で、成長するにつれて病気の兆候を感じ始めたときでも、パートナーに対して優しい人でした。彼は彼女の弱さを忠実に助けました。可能な限り彼らの家で。しかし、時間が経つにつれて、マリサはますます驚くべき混乱の兆候を示しました。悪夢と恐怖に囚われ、他の人にはほとんど気付かなくなりました。彼女の夫は誰を頼りにできるのでしょうか？彼も高齢であり、必要なサポートが不足していました。結局、彼は自暴自棄になって入院することを受け入れざるを得ませんでした。

マリサさんは自宅から遠く離れた市外、30キロ離れたところに入院していた。しかし、アントニオは毎日彼女を訪ね続けました。彼は彼女なしではやっていけないし、孤独を感じていた、そして何よりも彼女が彼に残された唯一の愛情だった。そこで彼は毎日、オリーブの木に覆われた丘の中の州道を走るバスに乗った。彼はそのような美しさには無関心で、自分の考えの中に閉じこもって、曲線や凹凸に耐えました。

ある日、研究所の門の前で、彼の心は耐えられなくなった。彼は妻から数メートル離れた場所で心臓発作で亡くなりましたが、妻は彼に何が起こったのか全く知りもしませんでした。彼は現在85歳でした。

魔理沙は彼の名を呼び続けた。時々彼女は裏切られたと感じた。何か悪いことが起こったのではないかと想像し、絶望することが多くなった。何が起こったのかを彼女に説明するのに時間を無駄にしたくない人は誰もいなかった。彼のすすり泣きの声は、他の多くの患者の声と混ざり合った。しばらくして、彼女も亡くなりました。一人で。

ストーリー | 8

メアリーの手紙

何年も前、施設に入院している高齢の女性からの熱烈な訴えが全国紙や地方紙に数多く掲載されましたが、この文書はその文書の意味と目的をよく要約しているようです。その表現力と明快さの点で、この曲を私たちのこの作品の最後に置くことは、私たちにとって重要なことのように思えます。

私はもうすぐ 75 歳になります。私は夫と一緒に住んでいた家と、二人の子供たちが結婚したときに残した家に一人で住んでいます。

私は常に自分の自主性に誇りを持ってきましたが、しばらくの間、特に自分の将来のことを考えると、以前と同じではなくなりました。まだ自給自足ですが、いつまで続くでしょうか？たとえ彼らがまだ私に「私も彼女の年齢で彼女のようだったら…」と言っているとしても、そのジェスチャーは日ごとに少しカジュアルではなくなっていることに自分自身の間で気づいています。買い物に出かけたり家のことをしたりすると、だんだん疲れてきます。

そして、「私の将来はどうなるのだろう？」と考えます。私が若かった頃、答えは簡単でした。娘と一緒に、義理の息子と一緒に、孫と一緒に。しかし、小さな家や家族全員が働いている今、どうやってそれを行うのでしょうか？したがって、今でも答えは簡単です。研究所です。

迷惑だ、誰もがそう言いますが、家を出て施設で暮らしたい人はいないことも、誰もが知っていて、言わないのです。

ベッドサイドテーブルのほうが良いなんて、本当に信じられない。狭い空間で、家での完全に匿名の生活。あらゆる物体、絵、写真が思い出させ、あまりニュースのない一日でも満たしてくれる。「私たちは彼自身の利益のために、彼を良い施設に入れたのです」という人々の言葉をよく聞きます。もしかしたら彼らは誠実かもしれないが、そこには住んでいない。

また、喉が渇いても水を与えるのに苦労したり、仕事にイライラしているからといって虐待したりするテレビニュースのような場所に私たちが行き着くわけではないことも認めましょう。

しかし、私は施設が少し体調の悪い人、そして何よりも孤独な人に対する答えであるとは本当に思いません。

突然見知らぬ人たち、望まれていない人たち、選ばれていない人たちと一緒に暮らすことは、本当に孤独を克服する方法なのでしょうか？私は施設内でどのように生きるべきかをよく知っています。休みたいのに、他人の騒音、咳、自分とは異なる習慣に耐えられないために休めない、ということが起こります。

年を取ると誇張されると言われます。しかし、本を読みたいなら電気を消したい人もいるだろうし、読みたいなら消そうとする人もいるだろうと想像するのは過言ではありません。

番組を見たり、別の番組を見たり、時間に間に合わなかったり。

避難所では、新聞を毎日読むこと、眼鏡が壊れたらすぐに直すこと、外出できない場合に必要なものを買うことなど、最も平凡な問題さえ困難になります。

洗濯後に下着を他人の下着と交換されてしまい、自分の下着が何も残らなくなることはよくあります。さらに悪いことに、食べることが悪いことではないと仮定すると、ほとんど何も決めることができないということです。いつ起きていつベッドに居るか、いつ電気をつけるか消すか、いつ何を食べるかなどです。そして、人が年を取ると（そして、以前よりも美しくなくなったと感ずるので、より恥ずかしい思いをします）、親密さや恥じることなく、病氣、身体的な弱さ、痛みなど、すべての共通点を持つことを強いられます。

研究所では「誰にも負担をかけずにすべてを手に入れられる」と言う人がいます。しかし、それは真実ではありません。あなたはすべてを持っているわけではありませんし、愛する人に迷惑をかけないようにするにはそれが唯一の方法ではありません。

代替案としては、何らかの援助を受けながら家にいて、気分が悪くなったり病氣になったときに、必要な時間だけ家で助けてもらうことができます。実際、少しの援助や在宅医療があれば自宅にいられる人もたくさんいます。そして、これらすべてに費用がかかりすぎるというのは真実ではありません。これらのサービスの費用は、最終的に長期介護施設や施設に入院する費用の3～4分の1です。自分で決めていないのに、最終的に施設に入るということも起こります。遺言の希望を尊重するのに、なぜ施設に行きたくないのに生きている間は聞き入れてもらえないのか理解できません。

ここイタリアでは、新しい研究所の建設に数千億ドルが割り当てられているとテレビで聞きました。私も小屋に住んでいたら幸せだろう。しかし、私には家とベッドがあり、すでに「寝る場所」があります。昼食を準備するために新しいキッチンを作る必要はありません。私のものを使ってください。テレビを見るために新しい大きな部屋を建ててもらう必要はありません。私はすでに自分の部屋に自分のテレビを持っています。うちのトイレはまだ正常に使えています。私の家は、どちらかという、壁にいくつかの手すりやハンドルがあれば十分です。そうすれば費用はずっと安く済みます。

私が将来に望むのは、人生の最後の数年を自宅で過ごすか施設で過ごすか、選択できる自由です。今日、私にはその自由がありません。このため、私はもう若くはありませんが、インスティテュートには行きたくない、誰にも望んでいない、と声を大にして伝えたいと思っています。私とすべての高齢者が家にいて、持ち物に囲まれて死ぬことができるように助けてください。もしかしたらもっと長生きできるかもしれないし、きっともっと良く生きられるだろう。

マリア。

